

コインの誤飲、小児の誤飲に対し内視鏡下摘出しえた 1 例

白石 裕子

【症例】 1 歳 10 か月女児 身長 90、体重 11.7kg

成育歴に特記事項なし

2 月 3 日朝から固形物を何回か嘔吐した。問いただしたところ、前日、4 歳上の姉と遊んでいてコインを口に入れたため、姉が取り出そうとしたところ、もみ合いになり、飲み込んでしまったという。2 月 4 日近医受診、レントゲンにて中部食道に円形の異物あり、画像上で計測し、10 円玉のサイズであることを確認した。

同日当院に転院し、全身静脈麻酔下に内視鏡的摘出術を施行。

麻酔薬はケタラール 200mg/20mg 静脈注射 (1.7mg/kg) を使用した。

処置の開始前、小児のため細径カメラの使用を想定し、2mm 鉗子口用の生検鉗子で 10 円玉が把持できることを確認した。

GIF-XP260N (外径 5.5mm, 鉗子口 2mm) を挿入、胸部上部食道に 10 円玉を確認した。生検鉗子で 10 円玉を把持できるものの、10 円玉が食道に固定され、取り出すことができなかった。いったん抜去し、GIF-H260Z (外径 10.8mm) を再挿入し、鉗子口 2.8 用のワニ口異物鉗子で摘出し得た。経過中、酸素投与 5 分間行い、食道の浅いびらんのほか合併症なく終了、翌日退院した。

乳幼児の誤飲について、たばこのほか化粧品、玩具なども多いとされる。救急外来で遭遇し、小児外科などを含む総合病院への転院を余儀なくされることもあるが、へき地の小病院にて比較的簡便かつ安全に治療し得た。地元で医療が完結することは家族にとって安心につながり、経済的な負担も軽減する。今回経験した具体的な方法と文献的考察を含め報告する。